

板紙・段ボール新聞

(昭和35年12月7日、第三種郵便物認可)
毎月7日、17日、27日発行
第二七五〇号
1101199年
元年11月17日

「期待通り」が人気の秘訣

●ISOWAアメリカ(以下、IA)の概要を教えてください

1989年に設立したINA(ISOWAノースアメリカ)を継承して、会社設立は02年、アリゾナ州フェニックスに本社を置く。北米で機械販売とそのサービスを行うが、ブラジルをはじめ南米エリアなどもカバーしている。社員は18名(営業3名、サービス8名)だ。

●この17年間の実績は

ファルコン、アイビス等FFGが40台程度、コル前に若干の空白期間もルゲータ関係はCF40シールドを中心に販売を展開。コンプリーももある。19年9月期はFFGだけで7台出荷した。先日もあるお客様に機械の調子を尋ねたが、『期待通り』の一言。これし、今期もすでに数台の受注残がある。従来は独立系段メーカー中心だったが、近年は大手一貫材が、これをカバーして余らもりピートが入る。来りある機械のパフォーマンスで、評価は高まる一に移転すべく、工事を進めている。ここには将来の業績がISOWA FFGのデモ機も設置。自社サービスマンやお客様のおペレータのトレーニングにも活用したい。

●今、何社と取引していますか

古くからのお客様も含めて約100社。うち半数では、比較的新しい機械(ファルコン、アイビスなど)を使って頂いている。

ISOWAの理念で北米開拓

『ヒデユキ(機輪社長)の考え方は非常に新鮮だった』、こう強調したのはISOWAアメリカのロン・ミラー社長。06年に入社以来、風土改革を理解し、「i機」を始めとするISOWAの理念でアメリカ市場を開拓してきた。社長就任は12年、ここ数年はファルコンやアイビスを中心に6、7台販売し、絶好調。来年早々にオフィスを移転拡大し、いずれFFGのデモ機を設置、トレーニングマシンとしても活用する構想だ。来日したのを機会に会社に対する考え方、アメリカの段ボール産業の現状や傾向なども聞いた。

IAのロン・ミラー社長



●機輪社長の進めた風土改革は日本人的な感覚

●機輪社長の進めた風土改革は日本人的な感覚

業(お客様)を大切にす。自分で伸びている。包装に結び付いているの材の仕様、規格変更を耳だと思つ。いい機械、いい仕事もあつたが、脱段ボールで目立った動きはと上司が押し付ける場合感じない。今のところ段と、社員が自主的に進んで行つた場合、結果は大きく違ってくる。アメリカでも同様の話をす。厚紙から始まり、段ボールに広がった。「平均的な工場」にまでは普及してないもの、日本よ。ISOWAはここが興味を持つ工場も多い。他社とは決定的に違つ。進んでいる段ボール工場はワンプラスでダイプリンターとして使用し、平盤に直結し、スパーなどに店頭ディスプレイ向けにハイグラフィックな印刷を提供している。通常の合併・統合が繰り返され、製造工程として使うのだからスピードもそれなりに速い。大きな数からスピードもそれなりに速い。大きな数からスピードもそれなりに速い。大きな数からスピードもそれなりに速い。

●ロンさんはIAのメ

●アメリカの段ボール

●最近の傾向や変化で

●デジタルプリントと

●IAの取組みを説明

●最後に

性はいっしょに理解されてる。ただ国土が広大で、日本ほど回収インフラが整備されておらず、回収できていない部分もある。特にeコマースの伸びで段ボールの回収率が全国に広がってしまつた。都市部では回収システムは整つていて、システムは整つていて、田舎に行けば...。過去3年の平均リサイクル率は92.7%と言われていて、輸入品に使われて入ってくる段ボールも加味すると、実際はここから成功させている。ISOWAの機械のパフォーマンスは知れ渡つてきた。これからの面白くなる。

理解し、この気持ちを持ってアメリカで成功させたい。ISOWAの機械のパフォーマンスは知れ渡つてきた。これからの面白くなる。